

PROGRAM



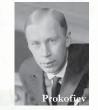
ギョーム・ルクー:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調

Guillaume Lekeu / Sonata for Violin and piano in G major

D.ショスタコーヴィチ:二つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品 D. Shostakovich / Five Pieces for 2Violins and Piano



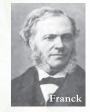
休憩 Intermission 20分



S.プロコフィエフ:二つのヴァイオリンのためのソナタ ハ長調 作品.56 S.Prokofiev / Sonate for 2Violins in C major op.56

C.フランク:ヴァイオリン・ソナタ イ長調

C. Franck / Sonata for Violin and Piano in A major



音楽家ができること、音楽家だからできること

プログラムに寄せて ― 新井 淨

今回登場する作曲家プロコフィエフは、ウクライナ・ロシア紛争の起点となったドネツィク州で1891年に生まれ、古典交響曲の初演後、アメリカへの亡命を決意 し、1918年5月7日、モスクワを旅立ちシベリア鉄道にてウラジオストク、6月1日、敦賀港に到着、19日から奈良ホテルに宿泊、奈良公園を散策している。今回3 月22日に奈良でプロコフィエフのソナタを演奏した二人は、どんな想いで演奏しただろうか。奈良では「公園には聖なる鹿が歩き回って、よくなついていて、パン をやると取り囲まれてしまう。池には、金色の魚がいて、太っていていやらしいが、これも聖なるものだ。」と記している。ピアノ協奏曲3番には、「越後獅子」の 旋律が流用されたといわれるが、以前群響でその実演に関わった時にそれを感じることはなかった。祖国を離れ20年弱の亡命生活から祖国に戻るプロコフィ エフとは、対照的に、ショスタコーヴィッチは、ロシアで生涯を過ごした。二人とも、いわゆる芸術に対するイデオロギーの統制である「ジターノフ批判」を受け、 ロシアで音楽生活は、制約がある中で、二人の作曲家のアイデンティーは、自国と他国を彷徨し、共に境界線を生きてゆく作曲家として多くの名作を残した。 一方、本年没後50年を迎えるショスタコーヴィッチとプロコフィエフの作品をはさみ、パリ高等音楽院の伝統を引き継いだ希少なヴァイオリニスト・オリヴィ エ・シャルリエとエマニュエル・シュトロッセによる、ルクーとフランクの名曲は、何を意味するだろうか。浜野が、日本で東京シティ・フィル等のコンサートマス ターなどの要職を歴任したが、なぜ、フランスにわたりオリヴィエ・シャルリエを師と選んだのか?それは、日本とヨーロッパを彷徨する演奏家として自らのア イデンティーを求めてだろう。教会音楽は、その響きが芳醇で、次のフレーズが始まるときに、その前小節の残響が残り、その境界がなくなってしまうという。 まさに境界線で活動する彼は、その境界を埋めることを目指すことである。それは、同時代にとどまることはなく、後世にもつながる普遍的な意味を探るこ とにある。未来のために大切な遺産を築き上げることを目的としているのだろう。そして芸術は、現代社会にも問いかけることのできるミッションを担ってい ることだ。そんな思いをもって、本日の演奏会を楽しんでいただければ、苦難を乗り越えて実現できて、本望である。

PROGRAM NOTE

ギョーム・ルクー:

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調

Guillaume Lekeu / Sonata for Violin and piano in G major (約35分) ギョーム・ルクー(Guillaume Lekeu、1870年1月20日 - 1894年1月21日)は、ベル ギー生まれの作曲家。セザール・フランクの最後の弟子として将来を嘱望さ れたが、24歳で夭<mark>折した。</mark>抒情的な幻想にあふれた作風が際立っている。 ルクーは、1888年にフランスのパリに移住、そこでルクーと同じベルギー出 身のセザール・フラン<mark>クに</mark>、フランクの死後は、彼の高弟であるヴァンサン・ ダンディに引き続き、師事した。パリ移住の約3年後にあたる1891年、ルクー が作曲したカンタータ『アンドロメダ』がローマ賞コンクールで2等賞を受 賞、そうした中、このカンタータ『アンドロメダ』に接し深く感銘を受けたの が、やはりルクーと同じベルギー出身のヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザ イだった。イザイは、ルクーに作曲を依頼、コンクール翌年の1892年に、この ヴァイオリンソナタが作曲された。作曲を依頼したイザイは作曲翌年の1893 年3月7日この作品を初演し、ルクーは、イザイに献呈している。なお、作曲し たルクーは初演の翌年、1894年に他界している。曲は全3楽章から構成し、 恩師フランクを受け継ぐかのようにルクーは献身的性質を備え、全力で音 楽に向き合っていた。フランクの影響を受けるかのように、循環形式が採り

入れられており、幾つものテーマが、調性やテンポを変化させながら、異な る表情で各楽章に繰り返し出現している。例えば、第1楽章の序奏で提示 されているテーマは終楽章である第3楽章に於いても3度出現している。

第1楽章 トレ・モデーレ~ヴィフ・エ・パッショーネ

Très modéré-Vif et passionné

序奏付きのソナタ形式。誰をも包み込むような温かい光を連想させるテーマ で"始まり"を語りかけるかの如く書かれた序奏に対し、次いで現れる主部 に於いては、複数のテーマを随所にちりばめながら、ヴァイオリンとピアノが 相互に情熱的に重なり合い、先を求め往き、そして再び平穏な世界に還る。

第2楽章 トレ・ラン Très lent

8分の7拍子を中心に拍子が不規則に変化するが、これはルクーの故郷べ ルギーのワロン地方の民謡に由来する。

第3楽章 トレ・ザニメ Très animé

冒頭で決意を語ると、ピアノが奏でるメロディに乗って、活気に満ちつつ前 へと突き進んでいく。中間部のところで第1楽章序奏テーマが出現し、恍 惚的な響きの中で逡巡するも、遠くから繰り返しピアノが語りかけてくるモ チーフによって覚醒、再び前進してコーダへ。そして輝く光に向かって駆け 抜けながら曲全体が閉じられる。

D.ショスタコーヴィチ:

二つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

D.Shostakovich / Five Pieces for 2Violins and Piano

(約15分

ドミトリー・ショスタコーヴィッチ (Dmitri Dmitriyevich Shostakovich, 1906年9月25日-1975年8月9日)は、ソビエト連邦時代の作曲家で、体制との葛藤の中に生きた作曲家。弦楽四重奏曲や交響曲などの作品からは、重苦しい暗さ、陰鬱さ、激しさが感じられる。体制の中、芸術は社会主義に従うべきとされ、表面は、迎合するが、作品の中に、自身の名前のイニシャルの音をテーマにするなど、皮肉を込めて抵抗した作曲家だ。しかし彼は映画音楽も多数担当し、ジャズやポップスを愛する音楽家であった。20世紀に入りクラシック芸術として現代では高名の作曲家でも当時の映画音楽やポピュラー音楽を生活の糧として書いていたのはよく知られている。日本では、武満徹「乱」伊福部昭「ゴジラ」など様々な作曲家が作品を残している。

この小品集では、音楽そのものの美しさを純粋に楽しむことができる。映画音楽から抜粋し、5つの小品として、二つのヴァイオリンとピアノで演奏できるように友人のアトブミヤンに編曲した。「前奏曲」はロシアの哀愁と、ウィーンの陽気さの境界線を行き来する優美なメロディ。「ガヴォット」(フランスの宮廷舞踊)と「エレジー」(哀歌)はいずれも喜劇からの抜粋である。ガヴォットは、笑い声やしゃっくりが聞こえてくるような楽章で、エレジーは平穏で美しくスウィングするような楽章。「ワルツ」では、軽やかかつ哀愁を帯びた、流れるようなダンスが表現されている。最後の曲の「ポルカ」では、息つく間もなく踊るような快活なリズムが特徴的である。

1 プレリュード Prelude

映画音楽「馬あぶ」より作品97 1955年作曲(E.ヴォイニチの小説の映画化)

2 ガヴォット Gavotte

3 エレジー Elegy

付随音楽「人間喜劇」より作品37 1934年作曲。

4 ワルツ Waltz

映画音楽「司祭と下男バルドの物語作品36 1933~34年作曲。(プーシキンの原作によるアニメーション映画のための曲)

5 ポルカ Polka

バレエ音楽「明るい川」(3幕)より作品39 1934~35年作曲。(台本:F.ロプホフとA.ピョトロスキー)

S.プロコフィエフ:

二つのヴァイオリンのためのソナタ ハ長調 作品56 S.Prokofiev / Sonata for 2Violins in C major op.56 (約15分

セルゲイ・セルゲーエヴィチ・プロコフィエフ (Sergei Sergeyevich Prokofiev、1891年4月2日-1953年3月5日)は、ロシアの作曲家、ピアニスト、指揮者。数多くの形式の音楽に傑作を残したことで知られており、20世紀の大作曲家のひとりであると認知されている。確立された型や様式の中で作曲をおこない、作品にはオペラ『三つのオレンジへの恋』の行進曲、交響組曲『キージェ中尉』、バレエ音楽『ロメオとジュリエット』、音楽物語『ピーターと狼』といったような広く聴かれる楽曲がある。習作を除くと7作のオペラ、7作の交響曲、8作のバレエ音楽、5作のピアノ協奏曲、2作のヴァイオリン協奏曲、2作のチェロ協奏曲、そして9作のピアノソナタがある。

この作品は、プロコフィエフが1932年に作曲し、室内楽協会トリトンの発足を記念する演奏会中の1曲として委嘱を受けて書かれた。トリトンはパリを拠点とし、室内楽の新作演奏を専門とする団体だった。その演奏会は、1932年12月16日に開催された。

しかし、作曲者自身の許可を得て、本作はそれよりも3週間早い1932年11

月27日に、モスクワでいずれもベートーヴェン四重奏団に所属していたドミトリー・ツィガーノフとウラディーミル・シリンスキーによって初演されている。このためトリトンでの演奏は「西側初演」となった。

1941年の自叙伝の中でプロコフィエフはこの作品の由来について記している。「時おり、悪い音楽を聴くことによって良い着想がもたらされることがある(中略)ピアノ伴奏のない2つのヴァイオリンのための不出来な楽曲(作品名未詳)を一度聴いた後、こうした二重奏には一見制約があるように思われながらも、10分もしくは15分の鑑賞に堪えうる興味深いものが作れるのではないかと思い浮かんだのである(略)」。

この作品では作曲者特有の不協和な響きは後退しており、後年のより簡素で抒情的な様式を予感させる作風となっている。

楽曲構成は、バロック期の教会ソナタの様式に倣い緩-急-緩-急の並びで構成され、2声の対位法で書かれている。

第1楽章 アンダンテ・カンタヴィーレ Andante cantabile

第2楽章 アレグロ Allegro

第3楽章 コモド (アレグレットに準じて) Comodo (quasi allegretto)

第4楽章 アレグロ・コン・ブリオ Allegro con brio

|C.フランク:ヴァイオリン・ソナタ イ長調

C.Franck / Sonata for Violin and Piano in A major

(約30分

セザール=オーギュスト=ジャン=ギョーム=ユベール・フランク (César-Auguste-Jean-Guillaume-Hubert Franck、1822年12月10日-1890年11月8日)は、ベルギー出身、フランスで活躍した作曲家、オルガニスト。ヴァイオリンソナタ イ長調は、フランクが、1886年に作曲した。ヴァイオリンとピアノのためのソナタ。フランス系のヴァイオリンソナタの最高傑作といわれ、同郷の後輩であるヴァイオリニストのウジェーヌ・イザイに結婚祝いとして作曲され、献呈された。初演は1886年12月16日にイザイによってブリュッセルで行われた。このソナタは、ピアノとヴァイオリンの音楽的内容が対等であり、ピアノはヴァイオリンの伴奏ではなく、ヴァイオリンも単なる独奏楽器ではなく、ピアノとヴァイオリンの二重奏曲と呼ぶべき大曲である。

この名作を演奏したいという様々な演奏家たちからのニーズによって、種々の編曲版が愛奏されてきている。古今東西、名だたるあらゆる演奏家たちがレコーディングを遺しており、数多くの名演に恵まれている。古い時代の名盤として知られているものの1つに、ジャック・ティボー(ヴァイオリン)とアルフレッド・コルトー(ピアノ)によるものがある。全4楽章からなり、いくつかの動機を基にして全曲を統一する循環形式(フランクが得意とした作曲技法で、『交響曲ニ短調』でも用いられている)で作曲されている。

第1楽章 アレグレット・ベン・モデラート Allegro ben moderato

イ長調、8分の9拍子、展開部のないソナタ形式。

属九の和音による開始は非常に印象的であり、第2主題はもっぱらピアノのみによって奏される。

第2楽章アレグロ Allegro

ニ短調、4分の4拍子、ソナタ形式。

きわめて情熱的な楽章で、ピアノとヴァイオリンの双方に高度な演奏技術 を要する。

第3楽章 レチタティーヴォ~ファンタジア Recitativo-Fantasia

2分の2拍子「幻想的な叙唱」(Recitativo-Fantasia)と題された、自由な形式による楽章。調性表記は無いが、転調を重ねて最後には嬰へ短調で終結する。

第4楽章 アレグレット・ポーコ・モッソ Allegretto poco mosso

イ長調、2分の2拍子、ロンドソナタ形式。ヴァイオリンとピアノのカノン風の楽想による、最後を飾るにふさわしい輝かしいフィナーレである。

この度、本日の公演を実現するにあたり、 匿名を含めてご協賛・ご協力いただき、 ありがとうございました。

株式会社 藤田ビジネスプロモーター 株式会社 しみづ農園 株式会社 清水 株式会社 丸越 株式会社 アースクリーンヤチダ 小池 茂 株式会社 井ノ上 焙煎館 小野 善平 株式会社 芹沢システムリサーチ 小島 秀薫 株式会社 フェドラ 豊田屋旅館 比紹企画 中澤行政書士事務所 ホテルサンルート熊谷駅前 高崎白衣観音 慈眼院 ミューズ音楽工房 笹澤 孝幸 澤田 まゆみ ピアノプラザ群馬 株式会社 雪草楽器 ラ・メーゾン洋菓子店 一般社団法人 ぐんまオペラバレエ振興会 NPO 法人 日本少年少女オーケストラ協会 株式会社 有花園 music&design FuKuLa (敬称略・順不同)

特別協賛

芸術を愛し、社会に貢献する





数藤田ビンネスプロモ-

前橋市問屋町 1-1-1 TEL 027-251-4455 (代) アパ マン 店舗 事務所 建物 土地 不動産活用

〒370-0035 群馬県高崎市柴崎町1631 TEL027-352-2244 **www.shimidzu.jp**



Green engineering

株式会社しみづ農園

☑ Growth Garden 🛕 🗓 📋 🗓 工房 🗚 🚾 professional aquatic plants layout



技術と信頼の総合建設業

〒370-0077 群馬県高崎市上小塙町577-4 TEL: 027-343-0896 FAX: 027-343-5164



〒371-0032 群馬県前橋市若宮町3-10-13 TEL 027-231-0709



心地良い空間を。心に響くサービスを。お掃除でお困りのことなら





前橋市富士見町石井804-1 TEL027-260-5320

去る 3 月 18 日から 25 日まで行われた大和 和国際音楽週間が、多くの参加者と聴衆を 魅了し、心温まる音楽週間となりました。













あなたに愛と調和と芸術を 株式会社 空間あい

株式会社 空間あい 代表取締役 新井 淨 〒370-0087 高崎市楽間町 280 番地 14 Phone 090-1815-4608 Fax 027-344 -1582 [E-mail] info@kuukanai.com [HP] https://kuukanai.com [ONLINE SHOP] https://shop.kuukanai.com

【STAFF】調律:笹澤 孝幸 写真:中村 義政 録画:牧口 広志 ステージ:比呂企画